
早期臨床実習を終えて

歯学科1年 柏瀬 莉緒

前期に早期臨床実習があり、無事に終わることができました。臨床実習といっても、コロナ禍のため、実際に診療科を見学することはできませんでした。講義による各診療科についての理解と、一つの題に沿ったグループワークを行いました。

各診療科の紹介では、医歯学総合病院の歯科にある11の診療科について、その役割や診療の例などを、実際にその科でご活躍されている先生方に紹介していただきました。放射線科や麻酔科、その他名前を聞いただけではどのようなことをするのか想像しにくい科についても、対象となる患者さんや治療内容を丁寧に教えていただきました。より専門性の高い歯科治療を知り、歯科医師への道を歩む上で気持ちが引き締まったように思います。

グループワークでは、「専門診療科の必要性について考察する」というテーマについて、歯学部1年生の中で無作為に振り分けられたグループのメンバーと話し合い、意見をまとめ、最後の授業で発表を行いました。以前まで、専門診療科の意義について考えたことがありませんでしたが、その在り方を追究する良い機会になりました。私たちの班では、専門診療科が必要であるという主張のもと、なぜ必要か、またあることによるデメリットとその解決策について考察しました。デメリットを挙げる際に、科の多さから切り込む人もいれば法の整備の面から切り込む人もあり、全く考え方が異なる人同士で意見を交わすことで、知識や考えを深めることができました。他の授業はオンラインで行われる上に話し合う場があまり設けられないので、画面越しではありましたが、顔を合わせて話すことができ、少しでも同期と話す貴重な時間となりました。

例年のように実際に診療を見たりすることができなかったのは心残りではありますが、コロナ禍

だからこそその貴重な経験ができたと思います。新潟大学歯学部の特徴の一つである早期臨床実習をなんとか実現すべく、内容を考え実行してくださった先生方に感謝いたします。

口腔生命福祉学科1年 東 七 愛

1年時の早期臨床実習では、新潟大学医歯学総合病院の各診療科の先生方の講義を聞いたり、1グループ10人に分かれて「専門診療科の必要性」について討論し、そこで出た結論を学年全員の前で発表したりしました。

各診療科の先生方の講義では、大学病院ならではの高度で専門的な内容を学ぶことができました。実際に行った治療法や患者さんの治療後の経過観察のお話を聞いて、歯科医師・歯科衛生士は歯学だけでなく、身体全体の構造についても深く理解している必要があると分かりました。また、自分でインターネットや書籍で調べるだけでは分からない、実際の医療現場のお話も聞ける大変貴重な機会であったように思います。

グループでの「専門診療科の必要性」についての討論は、全国の大学病院の専門診療科について自主的に調べる良いきっかけになりました。そこで、私たちのグループは全国の大学病院の特色ある専門診療科について調べ、それが設置された理由について考えました。さらに、そこから専門診療科を設置することのメリット・デメリットについて考察することにしました。全体発表に備え、少子高齢化などの時代背景も考慮し、自分たちが導き出す結論に聴衆が納得できるような根拠を持たせるように意識しました。このグループワークを通して、専門診療科についての知識はもちろん、自分たちの主張をどう展開し、発表すれば分かりやすく伝わるかといったプレゼンテーション力も身につけられたように思います。また、全体

発表ではそれぞれのグループが異なる切り口で自分たちの主張を展開しており、聞いていてもとても勉強になりました。

前年に続き、新型コロナウイルス感染拡大防止のため新潟大学医歯学総合病院での実習を行うことは出来ませんでした。この状況だからこそできる充実した学びができたのではないかと思います。そして、今年学んだことを来年度につなげていきたいです。

歯学科3年 水 上 大 河

早期臨床実習Ⅱは3年前期に行われたものですが、あまりに充実したカリキュラムの影響からか気づけば後期も半分ほど終わっていました。当時は本当に大変だった人体解剖学実習ですらもはや懐かしさを感じる程に濃密な日々を過ごしている訳ですが、そんな今でも印象に残っている早期臨床実習の内容を2つ振り返っていきこうと思います。

まず一つは、編入生である私にとって今回が初めての早期臨床実習であったということです。幸いなことに私はこれまで大学病院のお世話になるような大病も経験してこなかったため大学病院という建物にも不慣れで、初回の実習では特に緊張してしまっただけを覚えています。そんな中でも周りを見渡すと真っ当に入学してきた同期たちは涼しい顔で院内を移動しており、1年生の頃の早期臨床実習Ⅰの経験値がとても活かされていると感じました。臨床の現場の空気感に慣れることができるというだけでも、新潟大学で早期臨床実習を経験できるメリットは大きいと思えます。出来事でした。ちなみに全員が編入生であった私たちの実習班は、初回の実習終了後帰り道がわからず迷子になりました。

二つ目は、この実習の狙いでもある基礎科目と臨床との繋がりを意識できたということです。これについては、基礎科目を学んでいくのと同時進行で臨床を体験できたことが大きいと思います。例えば、人体解剖実習で頸部の解剖を経験した直後に放射線科の実習で自分の頸部のエコー画像を

見ることができたり、歯周病科で炎症や歯槽骨吸収の概要を紹介してもらってから、その詳細を口腔生化学の授業でさらに深掘りしたりなど、基礎と臨床の2つを同時に意識しながら学習を進めることができた期間でした。後期に入って臨床科目や実習が増えてきた今ではこれまで学んできた基礎の内容が頭から抜け落ちそうになりますが、臨床における基礎の重要性を早期臨床実習で体感したことを思い出しながら、今後さらに激しさを増していくであろう歯学部での講義や実習の数々に食らいついていこうと思います。

口腔生命福祉学科2年 近 藤 風 希

今年の早期臨床実習はコロナ禍の影響で残念ながら全て実際現場に行き、体験することはできませんでした。ですが、講義などを通して歯科衛生士や社会福祉士についての知識や理解を深め、自分たちは将来このような仕事をするのだという自覚が芽生えたと思います。今後の授業や実習にも繋がる大事な事を学ぶことができ、とても意味ある時間になったと感じました。

特に印象に残ったことは、新潟医療センターに実際に行って病院で働いている歯科衛生士さんの話を聞いたことです。周術期の患者さんの口腔ケアがとても大事で、口腔ケアを行うことで治療の効果も上がることや、認知症や寝たきり、車イスなど様々な状態の患者さんの治療など一般の歯科医院とは違う仕事内容を知ることが出来ました。今まで歯科衛生士の働く場所と言えば歯科医院という印象が強く、病院で行う歯科衛生士の業務についてあまりわからなかったのですが、具体的にどういったことに取り組んでいるのかを考えているのかを知ることができ、質問などもでき、とてもいい経験ができたと思います。

他にも、実際に児童相談所に実習に行き、保健所やばんだい桜園について講義を受けてそれぞれの場所での歯科衛生士、社会福祉士の役割について学ぶことができました。同じ職業でも働く場所によって業務がかなり変わるということがわかり、自分が思っていたよりも仕事の幅が広く、た

くさんの人に関わる職業だということを理解できました。

また、バイタルサイン測定や診療ユニットの使い方や実習室の見学、感染予防対策など、これから実習を進めていくうえで基礎となるようなことを学ぶことができました。医療従事者を目指している中で、これらのことは知識として身につけ、実際に行動できるようにしておくべきことだと感

じました。

この授業を通して、様々な場所での歯科衛生士、社会福祉士の仕事内容、役割について具体的に学び、理解を深めることが出来ました。今回この早期臨床実習で学んだことをこれから大学での勉強や実習に最大限活かして残りの時間を無駄にしないよう過ごしていきたいと思います。

